

はじめての英語 スピーチアクト

Introduction to English Speech Acts Strategies for "Thanking," "Apologizing," "Requesting," and "Inviting"

早稲田大学 ● 准教授
鈴木利彦

みなさん、「スピーチアクト (= speech act¹)」という言葉をご存知でしょうか。言語学（主に「語用論 (= Pragmatics)」)の研究対象の一つで、日本語では「発話行為²」と訳されている言葉の使用法です。言語というのは、「情報のやり取り」のために使用されるのはもちろんですが、会話に参加している人たちの「気持ち」や「意図」のやり取りのためにも使われているのです。本書のメイン・テーマである「スピーチアクト (発話行為)」は、「気持ち」や「意図」を表す目的のために使用される言語上の行為のことを指します。「言葉が気持ちや意図を表すためにも使われるなんて、何を当たり前のことを」と思われるかもしれませんが、その当たり前のことを母国語以外で行うというのは、実は簡単なことではありません。例えば、英語を使って相手の「気持ち」や「意図」を十分に理解し、また自分の「気持ち」や「意図」を十分に伝えることは私たち英語ノン・ネイティブにどれだけできるでしょうか？

もう少し具体的な例を出してみれば、「今週末に自宅で開くパーティーに、アメリカ人の友人を招待したい」時にはどのように言ったらよいのでしょうか。今まで受けた英語教育からとっさに思い浮かびそうなフレーズは、“Please come to my party, which is going to be held this weekend.”あたりになりそうです。しかし、アメリカの英語話者はまずそのようには言いません。詳しくは本編でご紹介しますが、特定のスピーチアクトを適切に行うには、「そのスピーチアクトに特有の語彙、文法、定型表現」を用いることが必

¹ スピーチアクト理論は、John L. Austin が *How to Do Things with Words*. (1962) で発表し、その後 John Searle が「間接発話行為 (= indirect speech acts)」という観点からこの分野を発展させました。

² 「言語行為」という呼称も使用されていますが、本書では「語用論」の分野で一般的に使用されている「発話行為」という日本語名称を使用します。

須なのです。「招待 (= Invite)」のスピーチアクトにはそのための語彙、文法、定型表現があり、それは「感謝」や「謝罪」のものとは異なるのです。そして更に、効果的に自分の気持ちを表し、意図を伝えるためには、色々なパーツ、すなわち「言語ストラテジー」を組み合わせてスピーチアクト全体をデザインする必要があります。「招待」のスピーチアクトの代表的なストラテジーの流れをご紹介しますと、まずは(1)「相手の都合を尋ねる」ことから始めて、(2)「どのようなイベントがあるかを説明」し、そして実際に(3)「相手を誘う」、というのが基本的な流れです。日本語でも基本的には同じような流れですが、このような言語ストラテジーの流れを意識したことはおありでしょうか。おそらく母国語を使っている時にはこのようなことを意識したことはなく、「当然のこと」として無意識に行っていたらいいのではないかと思います。さて、外国語である英語では、それぞれの部分をどのように言ったらよいのでしょうか。また、招待する相手との人間関係も考慮する必要があります。相手が親しい友人の場合と、年上の地位も高い方の場合では、どのように言葉を使い分けたら良いのでしょうか。

私たちが母国語である日本語を使用している際は、何の苦勞もなく「スピーチアクト (発話行為)」を行うことができます。これはある意味で驚くべきことで、「どんな状況か」、「相手が誰か」、「どの程度の話題か」など全ての要因を瞬時に判断して適切な言葉遣いをする能力が私たちには備わっているのです。例えば、相手が友人ならば「今週末のパーティー、来ない?」、また相手が先輩ならば、「今週末のパーティー、いらっしやいませんか?」と自然に言葉を使い分けることができます。このように状況に応じて語彙や文法、また抑揚などを使い分ける能力は、私たちが幼い頃から「社会的な状況」

の中で言語を使いこなしてきた経験から培われてきたものである、という事もできます。

場面や状況に応じて、様々な要因を考慮に入れて言語を使いこなす能力のことを「語用論的能力(= pragmatic competence)」と言います。これは、単に「意味を持った言葉を発する」というレベルを超え、人間関係や場の雰囲気(フォーマルさ)などの社会的要因 (social factors) を考慮に入れて語彙、文法、抑揚などを操作し「適切な言葉づかい」をする能力のことです。実は、このような能力は近年重要視されてきていて、文部科学省の「学習指導要領」の中でも「言語の働き」というテーマでスピーチアクトの指導が盛り込まれています³。私たちの母国語である日本語では何も考えずに自然にかつ完璧にできて、外国語で、人間関係や場の雰囲気などを考慮に入れて「適切な言葉づかい」をするためには、そのための学習とトレーニングが必要です。私たちは日本語を使って普段の生活を送っている限り、英語で対人関係の構築や維持を含めた「社会経験」を積んでいくことは困難です。英語の授業で学んだ語彙や文法を駆使して(人工的な)英文を作り上げることはできても、「場面や状況に応じて自然かつ適切に聞こえる表現を使う」ということは、そのための学習を積まなければ不可能です。ですので、英語ネイティブ話者が実際にどのように「場面に合わせて自分の気持ちや意図を適切に表現」しているのかを学ばなければなりません。

このようなニーズを強く認識した結果、英語ネイティブ話者が実際にどのように英語スピーチアクトを遂行するのかを言語学的に解明し、そして得られたデータをデータベース化して英語教育に活用

³ 現行並びに新しい「文部科学省学習指導要領」の中で、「言語使用の場面」と共に「言語の働き」が「取り上げるべきテーマ」とされています。
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youryou/main4_a2.htmの各リンクを参照 [2012年2月])

する目的で、私は2006年から「英語スピーチアクト・コーパス構築プロジェクト」を開始しました。現在(2012年3月)までに2回の科研費(科学研究費補助金)と2回の公的研究資金(早稲田大学特定課題研究助成費)を得て、研究プロジェクトを遂行しています。現在は英語ネイティブ話者のデータのみならず、日本語と日本人英語学習者の英語のデータも研究範囲に含め、また「世界共通言語としての英語」という観点からのスピーチアクト研究を海外の大学と進めています。本書では、それらの研究プロジェクトの中から、2006-2007年にアメリカ・ミズーリ州で160名以上の大学生を対象に集めたデータの分析結果をご紹介します。言語のデータベース(言語資料)のことを「コーパス(= Corpus [単], Corpora [複])」と呼びます。ある程度以上の規模の言語データベースは、多く使われる用法やまれな用法、さらに自然な表現法などについて、貴重な情報を与えてくれます。私自身が、本書関連の研究プロジェクトを開始してから、「英語スピーチアクト」の遂行方法についてどれほど学ぶことができたかわかりません。本書を通じて、私自身が学んできたことを皆さんにもお伝えできれば、と考えています。

本書では、日常生活でも必要度が高いと思われる4つの基本スピーチアクト、Thanking(感謝)、Apologizing(謝罪)、Requesting(依頼)、Inviting(招待)についてご紹介します。英語でこれらのスピーチアクトに込められた話者の「意図」や「気持ち」を理解し、またご自身でも自然な形でこれらを使えるようにしていただければ幸いです。

本書に出てくる用例は、基本的に私が集めたデータの中からピックアップしたものです。中にはそのままでは教材として不適切なものもありますので、学習のためにふさわしいように書き換えをしています。また、必要に応じて、理論的なことを説明するのに必要

な場合には、コーパスデータからではない、私の自作のものも例として記載していることを付け加えておきます。

最後に、これまで本研究に協力し支えて下さった皆様方に深く感謝の意を表す次第です。特に、Southeast Missouri State University の Dr. Adelaide Heyde Parsons には、データ収集の際に惜しみなくご協力いただき、心から感謝しています。そして、これまで研究助成金の交付をいただいた日本学術振興会 (JSPS) と早稲田大学、本書の出版の実現に向けてご協力・ご尽力いただいた南雲堂の岡崎さんと加藤さん、ご自身とご自宅の写真を提供していただいた Dr. Geoffrey Leech と本書の推薦文を書いて下さった清泉女子大学の 大杉正明先生にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

そして、本書を今年 (2012 年) 4 月に他界した母に捧げたいと思います。

著者

本研究に受給された、または受給中の研究補助金一覧

- ・ 2010-2012 年度
「英語・日本語・中間言語スピーチアクト・コーパスの構築と、その英語教育への応用」
日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) (課題番号: 22520410)
- ・ 2009 年度
「成人 (ビジネス) 英語・児童英語・総合英語スピーチアクトコーパスの構築と分析研究」
早稲田大学特定課題研究 B (課題番号: 2009B-083)
- ・ 2008 年度
「英語スピーチアクトコーパスの構築と分析: 会話ストラテジーの研究・教授法開発」
早稲田大学特定課題研究 A (課題番号: 2008A-840)
- ・ 2006-2007 年度
「英語スピーチアクトコーパスの構築と大学英語教育に於けるその活用」
日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究スタートアップ) (課題番号: 18820028)

はじめての英語スピーチアクト 目次

はしがき

まえおき レクチャー 9

スピーチアクトとポライトネス

Thanking (感謝) レクチャー編 17

Thanking (感謝) トレーニング編 39

Thanking 〈コラム〉

Apologizing (謝罪) レクチャー編 55

Apologizing (謝罪) トレーニング編 75

Apologizing 〈コラム〉

Requesting (依頼) レクチャー編 91

Requesting (依頼) トレーニング編 120

Requesting 〈コラム〉

Inviting (招待) レクチャー編 137

Inviting (招待) トレーニング編 158

Inviting 〈コラム〉

総合トレーニング 174

Thanking (感謝) レクチャー編

Thank (感謝) は、相手に感謝の気持ちを表すスピーチアクトです。謝意を表すキーワードは、日本語では「ありがとう」ですが、英語のキーワードはもちろん “Thank” です。まずは、“Thank you” と “Thanks” の二つのパターンがあることを理解しておきましょう。

Stage 1 (基本表現を学びましょう)



[初級レベル / Basic level]

◇ 基本表現

Thank you.

Thanks.

◇ + 強めの言葉

Thank you very much.

Thank you so much.

Thanks a lot.

Thanks so much.

◇ + 呼びかけ

John, thanks a lot.

Thank you so much, Mr. Johnson.



Thank you so much, Mr. Johnson.

“Thank you” を強める場合は、*very much* か *so much* ですが、“Thanks” の場合は *a lot* か *so much* で強めます。「相手のために行う」スピーチアクトでは、「強調」が「ポライトネス」に繋がります。それゆえ、これら強調のための語彙ストラテジーが頻繁に使われているというわけです。

そしてアメリカ英語では、ほとんどのスピーチアクトに通じることですが、相手への呼びかけ (= address term) が多用されます。呼びかけ表現を使うと、相手との心的距離を縮めることができます。「相手との距離を縮める」というのは、主にアメリカ英語に見受けられる「ポジティブ・ポライトネス」と呼ばれる「ポライトネス・ストラテジー」⁷ の一つです。「相手への配慮」は何も「敬意表現」だけではありません。「相手への親しみ」を示すことも、大切なポライトネスの要素の一つです。相手への呼びかけは、文の最初でも、途中で、最後でも構いません。相手と一定以上親しくなったら、なるべくこの呼びかけを織り込むようにしましょう。英語圏(特にアメリカ)で良い対人関係を作るための大切な方策の一つです。

⁷ Brown & Levinson (1987) は、相手の「肯定的に認められたい願望」を尊重するためのポライトネスを「ポジティブ・ポライトネス (= Positive Politeness)」、相手の「自分の領域を守りたい願望」を尊重するためのポライトネスを「ネガティブ・ポライトネス (= Negative Politeness)」と定義しています。

Stage 2 (基本表現+基本ストラテジーを学びましょう)



[中級レベル / Intermediate level]

◇ +理由

1) **Thank you so much for the nice gift you gave me.**

(あなたがくれたすてきな贈り物、本当にありがとう。)

2) **Thank you for helping me with my math, Mrs.**

Gibbons.

(ギボンス先生、数学で手助けして下さい、ありがとうございます。)

◇ 謝意の別表現

I really appreciate it. (心から感謝しています。)

◇ +理由と謝意の別表現

Thank you for helping me with my math, Mrs.

Gibbons. I really appreciate it.

(ギボンス先生、数学で手助けして下さい、ありがとうございます。心から感謝しています。)



Thank you for helping me with my Math, Mrs. Gibbons.
I really appreciate it.

さて、基本表現をマスターしたら、少しずつストラテジーを加えて、謝意の表現方法に磨きをかけていきましょう。「中級レベル」では、主要ストラテジーとして3点をご紹介します。

まずは、「理由(感謝の対象)を述べる」です。お礼を言うのですから、何に対して感謝しているかを説明するのは当然のことです。最初の

例文は贈り物に対して相手に謝意を表し、2番目の例文では、「数学(の問題を解くの)を手伝ってくれてありがとうございます」と先生にお礼を言っています。理由を表すためには、for を使用します。for は前置詞 (= preposition) ですので、その後には名詞句、動名詞句、名詞節などの「名詞の働きをする語句」が来ます。最初の例では the gift ... が、2番目の例では helping ... がそれらにあたります。

次に「謝意の別表現」ですが、これは「本当にありがとう」といったニュアンスで使われます。よく使用されるのが、*I really appreciate it.* で、「心から感謝しています」といった感じです。*Thank you ...* と組み合わせれば、丁寧な表現として使用することができます。単に *I appreciate it* ではなく、*I really appreciate it* です。ここでも強調のための語彙ストラテジーが用いられています。

Stage 3 (様々なストラテジーと組み合わせ方を学びましょう)

[上級レベル / Advanced level]

(A) ~色々なストラテジー~

さあ、今までの基本的表現と基本サブ・ストラテジーを学んだら、次は様々なサブ・ストラテジーを組み合わせる自由なスピーチアクトを使用できるようにしていきましょう。次ページのストラテジー・リストは、私が2006 - 2007年にアメリカ・ミズーリ州で大学生160名以上を対象に集めたスピーチアクト・データを分析した結果得られたものです。

Strategy	Freq.	%
1. Positive evaluation of Hearer's help 相手の援助に対する肯定的な評価	52	17.2%
2. IFID ⁸ 1 Thank you の使用	48	15.9%
3. IFID 1 + reason Thank you の使用+理由	47	15.6%
4. IFID 2 + reason Thanks の使用+理由	44	14.6%
5. IFID 2 Thanks の使用	30	9.9%
6. Appreciation 謝意の別表現	25	8.3%
7. Promise of return/repayment 返却/返金の誓い	14	4.6%
8. Speaker's trouble without Hearer's help 相手の援助がなかった場合のトラブル	12	4.0%
9. Praise of Hearer 相手への賞賛	11	3.6%
10. Evaluation of Hearer's extra effort 相手の特別な努力に対する評価	9	3.0%
11. Offer of Speaker's future help 相手への将来の援助の提供	6	2.0%

(5 回以上使用されたものから実用的なものを抽出)

⁸ IFID = Illocutionary Force Indicating Device (発語内行為表示装置) は、どのスピーチアクトを行っているかを直接明示的に表す語のことです。たとえば、I promise の promise (スピーチアクト = Promising) がそれに当たります。別名を performative verb (遂行動詞) と言います。

ストラテジー・リストを見ると、“Thank you” や “Thanks”、「理由 (感謝の対象)」、「謝意の別表現」以外で多いのは、[1]「相手の援助に対する肯定的な評価」であることがわかります。具体例として、以下の5例をあげてみます。

[1] 「相手の援助に対する肯定的な評価」



1) It's the best gift I've ever received.

(今までもらった中で一番の贈り物です。)

2) I love it. (すごく気に入りました。)

3) I liked the presents very much.

(それらのプレゼント、とても気に入りました。)

4) That motivated us to do well in school, and so now I'm going to college.

(そのことが私たちに学校でやる気を与えてくれて、今では私は大学に行く予定です。)

5) It is really nice of you to come and help me like this.

(こんな風に助けに来てくれて、本当に親切ですね。)



It's the best gift I've ever received.

相手が自分のために何かをしてくれたわけですから、そのことを肯定的に評価するのは当然のことです。相手に対する「ほめ」(Compliment)をご褒美にしているとも考えられます。

[9]「相手への賞賛」も、そのような「ほめ」の一環であると考えることができます。(こちらは、主語が大体 You になっています。)

[9]「相手への賞賛」



1) You're a lifesaver! (あなたは命の恩人です。)

2) You guys did a great job!

(あなたたちは素晴らしい仕事をしましたね。)

3) You are the best mom ever. (お母さん、本当に最高。)



You're a lifesaver!

ちなみに、「賞賛(= Compliment)」のスピーチアクトは、良い意味を持った形容詞(best, nice など)や良い意味を持った動詞(like, love など)が頻出です。語彙の持つポジティブ、またはネガティブな意味を意識することもスピーチアクト遂行のためには必要です。

その他の主要サブストラテジーも見ていきましょう。まずは [7]「返却／返金の誓い」です。

[7] 「返却／返金の誓い」



1) I'll return it to you later this afternoon when classes are over.

(今日の午後、授業が終わったらそれ返すからね。)

2) I'll pay you back tomorrow. (明日お金を返すよ。)

3) I'll be sure to return the necklace to you when I get back.

(あとで戻ってきたら、必ずネックレス返すからね。)

4) I'll wash it and bring it back to you.

(それは洗ってから返しますね。)



I'll pay you back tomorrow.

これらの例文に共通しているのは、I'll / I will で始まる冒頭部分です。これは、単純に未来の予定を表しているというよりは、「～するつもり」という話者の意志を表しています。

次は、[8]「相手の援助がなかった場合のトラブル」です。こちらではやや複雑な文構造が出てきます。

[8] 「相手の援助がなかった場合のトラブル」

1) I couldn't have completed it without you.

(あなたなしでは完成できなかったことでしょう。)

2) I would probably have gotten them all wrong if you hadn't helped me.

(もしもあなたが手伝ってくれなかったら、たぶん答えを全て間違っていたことでしょう。)

3) Without that extra time, I don't know what I would have done.

(あの期限の延長がなかったら、自分が何をしていたか想像もつきません。)



I couldn't have completed it without you.

お分かりのように、「仮定法過去完了」が、「あなたの援助がなかったら、～できなかったことでしょう」というニュアンスで使用されています。高校英文法のおさらいになりますが、主節の動詞句の基本パターンは、

[過去形の助動詞] + [have] + [動詞の過去分詞形]

です。このように少し手ごわい文法事項ですが、話者の気持ちを表

すために会話では頻出です。「意図や気持ちを表す法助動詞 (= *can, may, will, could, might, should, would* など) の使い方と共に、ぜひマスターしていただきたいと思います。

次に [10] 「相手の特別な努力に対する評価」です。相手の親切な心遣いに対して使われます。「(わざわざ) そのようなことを私のためにする必要はなかったのに (してくれたのですね)」というニュアンスです。

[10] 「相手の特別な努力に対する評価」



1) You didn't have to do that. (それをする必要はなかったのに。)

2) You didn't have to get me anything.

(私に何かくれる義務はなかったのに。)

3) You really didn't have to pay for everything.

(本当に、全部払ってくれる必要はなかったのに。)

4) How did you know that this is exactly what I wanted?

(これこそ私が欲しかったものだったって、どうしてわかったの?)

5) I can't believe you remembered that I wanted it.

(私がそれを欲しがっていたことを憶えていたなんて、信じられない。)



You really didn't have to pay for everything.

上記の1)–3)に共通するのは、“You didn't have to ...”の部分です。直訳すれば、「あなたは～しなくてもよかった」ですが、「～する義務はなかったのに (してくれた)」といった意味でつかわれています。

日本語でも、感謝する時に相手の特別な努力や配慮に言及するのはよくあることなので、英語でもそれを表現できるようにしておきましょう。

最後に、[11]「相手への将来の援助の提供」をみてみましょう。

[11] 「相手への将来の援助の提供」



1) Next time, I can give you a ride.

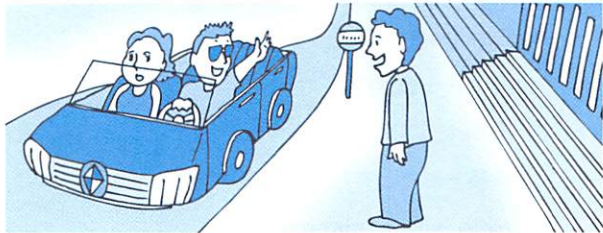
(次回は私が乗せて行ってあげます。)

2) I will help you when you have a problem.

(君になにか問題が起きた時は私が助けてあげます。)

3) If you ever need help with something, just ask.

(もし何かで助けが必要になったら、(遠慮なく) 言ってね。)



Next time, I can give you a ride.

「今回はあなたが助けてくれたから、次は私があなたを助ける番です。」という話者の意図が読み取れます。このような言葉を添えれば、相手も「また助けてあげたい」という気になってくれることでしょう。対人関係の構築、維持、発展のためには、色々な気遣いや配慮を言葉で示すことが必要であることが、このストラテジーからもみとれます。

(B) ～色々な場面でのストラテジーの組み合わせ～

さて、Thanking の学習も大分深いところまで来ました。今までご紹介したストラテジーの数々は、どのような場面で、どのような組み合わせで使われるのでしょうか。次はこのテーマを追ってみましょう。

使用された場面	(5 回以上出てきたもの)
1. Gift	
贈り物をもらった時	37
2. Borrowing (something)	
何かを貸してもらった時	15
3. Kindness	
親切にもらった時	12
4. Gift (money)	
お金をもらった時	9
5. Treat	
食事をおごってもらった時	9
6. Help with assignment	
宿題を手伝ってもらった時	8
7. Borrowing (money)	
お金を貸してもらった時	8
8. Giving a ride	
車で送ってもらった時	7
9. Cooking	
食事を作ってもらった時	6
10. Service/Work for S	
自分のために何かをしてもらった時	6

11. Offer from teacher (extension/makeup exam)

先生から特別措置をもらった時 (課題提出期限、追試)

5

これらの場面は、アメリカの大学生にとってよく感謝を表す場面ということです。それで、「宿題を手伝ってもらった時」や「先生から特別措置をもらった時」などが上位に入っているわけです。

では、実際の場面と会話ストラテジーの組み合わせをいくつかご紹介しましょう。

1. Thank you の使用 + 理由 + 謝意の別表現

MP3 10

Situation (場面)	Utterances (発言)	Strategy (ストラテジー)
<p>Thanking Katie for letting me borrow her cell phone. (携帯電話を貸してくれたケイティに感謝する場面)</p>	<p>Thank you so much for letting me borrow your cell phone. (携帯電話を貸してくれて、どうもありがとう)</p>	<p>Thank you の使用 + 理由</p>
	<p>I really appreciate it. (本当に感謝しています)</p>	<p>謝意の別表現</p>



こちらの表現では、このスピーチアクトで頻出のパターンの *for letting me borrow* が使用されています。日本語で言うと「貸してくれて」ですが、*lending me* ではなくこちらがよく使われているというのは英語で自然に感じられるだと思われます。このような表現も頭に入れておきたいところです。

MP3 11

2. 呼びかけ + Thanks の使用 + 理由 + 相手の援助に対する肯定的な評価

Situation (場面)	Utterances (発言)	Strategy (ストラテジー)
For graduation, I received \$100 from my grandparents, so I had to thank them politely. (卒業式のお祝いに祖父母から100ドルもらったので、丁寧に感謝する場面)	Grandpa and Grandma, (おじいちゃん、おばあちゃん)	呼びかけ
	thanks so much for the graduation money. (卒業式祝いのお金、どうもありがとう)	Thanks の使用 + 理由
	It was the nicest gift I have ever received. (今までもらった中で最高の贈り物だよ)	相手の援助に対する肯定的な評価

ここでは、少し多い金額をもらったということで、丁寧に感謝の気持ちを伝えようという姿勢が見受けられます。相手が祖父母ということで、*thanks* の代わりに *thank you* を使った方が良いでしょう。そこは「親しく距離が近い相手」ということで、*thanks* を使用していると考えられます。強めの言葉も基本の *a lot* ではなく *so much* であることも、丁寧に感謝の気持ちを伝えてよとする姿勢の一環といえるでしょう。

3. 呼びかけ + Thank you の使用 + 返却／返金の誓い

MP3 12

Situation (場面)	Utterances (発言)	Strategy (ストラテジー)
My mom let me borrow the car. (車を貸してくれた母に感謝する場面)	Thank you so much, (どうもありがとう)	Thank you の使用
	Mom! (おかあさん)	呼びかけ
	I'll have it back in an hour! (1時間で返すからね)	返却／ 返金の誓い

こちらはシンプルな例ですが、基本表現に呼びかけと一言添える（この場合は「返却の誓い」と英語で自然ななることがわかる好例です。このようなストラテジーの組み合わせ方を実際に使用できるようにしておきましょう。

(C) 会話の中での Thanking

次は、会話の中でどのような場面でどのように Thanking が実行されるか、また、それに対してどのように受け答えがなされるかを、私の「スピーチアクト・コーパス」のデータからご紹介しましょう。

1. プレゼントへの感謝

1-a 「叔母さんからの誕生日プレゼントへの感謝」

MP3 13

I: Thank you for my birthday gift. I really appreciate it.

Aunt: You're welcome! I hope you enjoy it!

私： 私へのプレゼント、ありがとう。本当にうれしいです。

叔母：どういたしまして。楽しんで使ってね。



叔母さんの誕生日プレゼントへの感謝に対して私は定番の “You're welcome” を使用して応じています。基本表現として、しっかりと覚えておきたい表現です。

1-b 「友人からの誕生プレゼントへの感謝」

MP3 14

I: Hi. What's up?

Friend: Nothing much. I just got you a present for your birthday.

I: You didn't have to do that, but thank you. I really appreciate it.

Friend: Well, open it.

I: Oh, what a beautiful necklace! I love it. It'll look great with my new dress. Thanks so much.

私： あら、どうしたの？

友人： なんでも。君に誕生プレゼントを持ってきてただけだよ。

私： そんな必要なかったのに。でも、ありがとう。とてもうれしいわ。

友人： まあ、開けてみてよ。

私： わあ、素敵なネックレス。最高。私の新しいドレスにとても似合いそう。本当にありがとう。

ここでは、友人は私の感謝に対しては直接答えずに、“Well, open it”とさりげなく受け流しています。プレゼントの内容にもっと喜んでほしかったということなののでしょうか。実際に私はプレゼントのネックレスをみてさらに感激しています。実際の会話ではこの後に友人は“You're welcome” “No problem” “My pleasure”などの表現を用いて私の謝意に応じることでしょう。

2. 物を貸してくれたことに対する感謝

2-a 「友人が電卓を貸してくれたことへの感謝」

MP3 15

I: Thanks so much for lending me your calculator, Beth. I couldn't have solved the problem without it.

Beth: No problem. Just let me know if you need it again, okay?

私: ベス、電卓貸してくれてありがとう。あれがなかったら問題解けなかったわ。

ベス: どういたしまして。また必要だったら言ってちょうだいね。

ここでは ベス は、別の頻出の応答表現である “No problem” を使用しています。次の発言では、さらなる協力の姿勢を示しています。相手が依頼しやすくするために、*Just* (ただ~だけ) を添えています。この *just* は、相手を励ましたり何かを頼みやすくしたりするためによく使われる表現です。この *just* の使い方もぜひ覚えておいて下さい。

2-b 「友人がお金を貸してくれたことへの感謝」

MP3 16

I: Hey Aaron, thanks again for lending me the money.

Aaron: Don't worry about it. It's not a big deal.

I: Well, here it is. You're a real friend.

私: アーロン、お金を貸してくれて重ね重ねありがとう。

アーロン: 気にしないでいいよ。大したことじゃないよ。

私: さあ、返すよ。君は本当の友達だね。

ここではアーロンは “It’s not a big deal” (大したことじゃないよ) を用いて謝意に応じています。意味的には “No problem” に非常に近い表現ですが、ちょっとした応用編として使えるようにしておきましょう。

3. 何か自分のためにしてくれたことへの感謝

3-a 「友人が動物園にいっしょにしてくれたことへの感謝」

MP3 17

I: Hey, John. I wanted to thank you for going to the zoo with me today.

John: Oh, no problem. It was my pleasure. I had a lot of fun. Thanks for inviting me.

私: ジョン、今日一緒に動物園に行ってくれてありがとうって言いたいと思っていたんだ。

ジョン: どういたしまして。こちらこそ。僕の方こそ楽しかった。誘ってくれてありがとう。



この会話では、ジョンは感謝に対して感謝で応じています。その前にも、“no problem” と “my pleasure” を重ねて使用しています。このように応答表現を重ねて使うことも、相手への気遣いを示すうえで有効です。



3-b 「見知らぬ人がペットを見つけてくれたことへの感謝」

I: Oh, you found my dog! Thank you so much!

Someone: It's no problem, ma'am.

I: Thanks again. I was so worried.

Someone: You're quite welcome.

私: ああ、私の愛犬を見つけてくれたのね。本当にありがとうございます。

見つけてくれた人: おあいご用です、奥さん。

私: ありがとう、本当に心配だったの。

見つけてくれた人: どういたしまして。

この会話では、私の感謝が2回続いているので、見つけてくれた人は“no problem”と“you're welcome”の2つの表現で応じています。このような場合もあるので、いざという時に使えるようにいくつかの応答表現を憶えておきたいところです。



3-c 「友人が車で迎えに来てくれたことへの感謝」

Friend: Hey! How was your flight?

I: Pretty good. A little bumpy. Thanks for picking me up. I really appreciate it.

Friend: No problem.

友人: やあ、空の旅はどうだった?

私: なかなか良かったよ。ちょっと揺れたけどね。迎えに来てくれてありがとう。感謝してるよ。

友人: どういたしまして。

(D) ～コロケーション (語句の組み合わせ) ～

最後は言語学的な研究です。このスピーチアクトではどのような単語同士が組み合わされるのでしょうか。たとえば、前置詞の *for* は、本書で使用している研究データでは *you* の次に多く使用されている単語です。この単語の使われ方を、コーパス分析ツール“Wordsmith⁹”を使って調べてみると、以下のパターンが多いことがわかります。

[FOR]

Thanks	FOR	letting	me	borrow
Thank you		helping		
Thank you so much				

参考：Wordsmith による言語使用パターン分析結果 (for)

N	L4	L3	L2	L1	Centre	R1	R2	R3
1	THANK	YOU	THANK	THANKS	FOR	THE	ME	YOU
2	SO	THANKS	SO	YOU		LETTING	THE	I
3	I	IT	THANKS	MUCH		ME		THANK
4	IT	MUCH	IT			HELPING		BORROW

このような単語レベルでのコーパス分析結果からも、「自然な英語表現」へのヒントを得ることができるのです。

もう一つ、このスピーチアクトで頻出の副詞 *really* の出現パター

⁹ Mike Scott 氏によって開発された、コーパス分析ソフトウェア。このソフトを使用して、主に次の3点を調べることができます。1) Concordance (コンコルダンス=一致): 検索したい単語の文中における使用例。2) Wordlist (単語リスト): 調査対象のデータ中の出現頻度順の単語のリスト。3) Keywords (キーワード・リスト): 基本的なコーパスデータと比較して、調査対象のデータ中で特徴的に使用されている単語のリスト。

(参考: http://www.lexically.net/wordsmith/step_by_step_Japanese/index.html)

ンを見てみましょう。

[REALLY]

I	REALLY	appreciate it
It was		good

参考：Wordsmith による言語使用パターン分析結果 (really)

N	L2	L1	Centre	R1	R2
1	IT	I	REALLY	APPRECIATE	IT
2		WAS		GOOD	

I really appreciate it は、謝意の別表現として紹介済みです。この分析結果からも、これが Thanking のスピーチアクトで頻出の定型表現であることが浮かび上がってきています。*It was really good* は、「本当においしかった」という意味で、「相手の援助に対する肯定的な評価」の一つです。やはり、「本当に (= really)」感謝したい場合には「本当に (= really)」という言葉をも必然的に使用して強調する、ということだと考えられます。